

氏名	國富 俊輝
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6435 号
学位授与の日付	2021年9月24日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Differences in attitudes and practices of cancer pain management between medical oncologists and palliative care physicians (腫瘍内科医と緩和ケア医との間におけるがん疼痛管理の態度と実践の相違)
論文審査委員	教授 山田了士 教授 頼藤貴志 准教授 松岡賢市

学位論文内容の要旨

がんの疼痛緩和はがん治療における重要な問題である。がん患者の70-90%は不十分な疼痛管理を受けており、その原因として患者と医師双方の疼痛緩和に対する知識不足が報告されている。しかし、これらの研究は医師の専門分野の違いが考慮されていなかった。そこで今回われわれは日本全国を対象に質問紙票を用いて腫瘍内科医とがん緩和医との間でがん疼痛管理への意見と実践に相違があるかどうかを評価した。1,227名へ送付され、うち445名の有効回答分につき検討を行った。その結果、「がん患者がオピオイドの副作用や依存性を恐れて痛みの自己評価が不正確であり、オピオイドの使用にも消極的である」という考えには両者に意見の相違は無かった。一方「がん緩和医への受診体制が不十分である」や「医師がオピオイドの処方に消極的である」という考えには両者で有意な差をみとめた。今後、がんの疼痛管理は腫瘍内科医とがん緩和医の相違を考慮して行っていく必要があると考える。

論文審査結果の要旨

がん疼痛緩和における医師の知識や実践の均てん化が叫ばれて久しいが、未だに各医師の背景によって不均一な状況がある。本研究はこうした実態について、医師の専門領域によってどのように異なるかを、腫瘍内科医と緩和ケア医の2群について質問紙を用いた全国規模の調査を行って、比較検討したものである。

本研究では、適切ながん疼痛緩和に対する障壁として、緩和ケア医ではオピオイド使用に消極的な医師が多いことを重視する傾向があったのに対し、腫瘍内科医では紹介先がみつけにくいなどのシステム上の問題を重視する傾向があるなどの有意な差が示された。今後の臨床において、こうした差違による問題があれば改善し、一方では専門性による差違を互いに認めてチーム医療に活かしていくなどの方向性を示す知見として意義があると考えられる。

委員からは、比較を行った群の分け方や、質問内容の目的、今後の臨床教育における本研究の応用などについて質問があり、いずれも適切な回答を行った。

本研究は、医師の専門分野によってがん疼痛緩和における実践や捉え方の違いについて、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。